

# アジア太平洋地域に根差した ESD の実践とグローバルな枠組みをつなぐ 財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

## 概要

ACCU は、アジア太平洋地域のコミュニティーレベルでの、特に社会経済的に恵まれない人々を重点とする活動を支援しつつ、そこに育ち根づいているさまざまな知恵や実践と、国際社会において持続可能な未来についての議論をつなぐ役割を果たすことを通じて、ESD 推進に貢献しています。そのために、情報の共有を基本にしながら、ESD をとともに考える教材制作、人材養成、ネットワークの広がり、フォトメッセージ・コンテストの開催などの活動に取り組んでいます。また、2005 年以降、日本政府がユネスコに拠出する ESD 信託基金事業の事務局を受託し、アジア太平洋地域における革新的プロジェクトの発掘・運営、及び専門性を有する COE 機関との連携による ESD 推進活動を行っています。



ACCU アジア太平洋フォトメッセージ・コンテスト  
2007 入賞作品 マラカイ・H・カウフシ(トンガ)

## 目標 ESD の実践を支え、地域の取組みを国際舞台へとつなげる

これまで行ってきた教育・文化協力、人物交流事業を ESD の視点と照らし合わせながら見直し、深化させることとともに、特に、識字・ノンフォーマル教育事業で対象としてきた教育の機会に恵まれない人々のための「万人のための教育(EFA)」目標達成のための実践活動を重視しつつ、学校、メディアなどを巻き込みながら、ESD に役立つ教材制作を行い、好事例の発掘・育成や意見交流の場を設けます。

また、「アジア太平洋地域 DESD 国連関係機関運営委員会」(略称 AP-DISC)の構成団体として、国連関係機関と調整・連携してグローバルな ESD 関連の動きとの相乗効果を図ります。草の根レベルでの事業に対して支援を行いながら、同時に ESD という枠組みで、国を越えた「知」の蓄積と交流、情報発信を進めていきます。

## 主な活動

### (1)イノベーション創成プログラム-革新的な ESD プロジェクトへのサポート

ESD をアジア太平洋地域において実施・推進する上で、好事例となる革新的な事業の発掘と支援を行います。第 1 期には、地域に根差した学校教育、ノンフォーマル教育、計 10 件を、2006 年秋より 2 年間にわたりサポートしました。本プログラムでは、ESD の理念の実践を通じて、既存の取組みに付加価値を生み出すことが重要視され、識字、防災、貧困削減、地域に開かれた学校など、異なる分野のプロジェクトより得られた知見を蓄積し、幅広く共有することで、DESD への貢献を図っています。



参加型学習:身の周りの課題に気付き、学び、発表するタイ イノベーション創成プロジェクト

### (2) COE 形成プログラム-専門性を活かして ESD 推進の拠点となる組織の協力支援

「国連 ESD の 10 年」という好機を捉え、公募によりアジア太平洋地域から選出された 5 機関の COE (Centre of Excellence) が、ESD 好事例の普及や政策提言を行い、ESD が提唱する課題が様々なレベルの政策や事業計画、教育課程や現場における実践に浸透するよう働きかけます。

COE: アジア南太平洋成人教育協議会 (ASPBAE)  
ダッカ・アーサニアミッション (DAM)  
タイ環境研究所 (TEI)  
TVE アジア太平洋 (TVEAP)  
南太平洋大学 (USP)



農村リーダーから有機農業の説明を受ける  
COEメンバー達

### (3) ESD 教材・PLANET (プラネット) -教材を用いた知識の習得から行動変革へ

マルチメディアの PLANET 教材は、1997 年よりアジア太平洋地域の教育・アニメーション専門家及びユネスコと共同制作され、水、森林保護、ゴミ管理、防災等の環境の主要テーマを扱い、ノンフォーマル教育の場や学校で学ぶ子ども・大人を対象に、現在の状況を改善する動機付けとなることを目的として開発されました。環境問題に対する意識を高め、自然と人間のつながりを再認識することで、ESD の促進となることを目指します。また、行動変革や自己の振り返りに結びつく学習方法やファシリテーションの開発や学びを重視しています。多くの国で自国版が制作され、国を超えた共通教材として広く活用されています。



ACCU アジア太平洋フォトメッセージ・コンテスト  
2007 最優秀賞 タナヴィット・カムソーバー(タイ)

### (4) ESD フォトメッセージ・コンテスト-より多くの人々が持続可能な未来を語る機会の創出

アジア太平洋地域 45 か国を対象に、現在及び将来の世代に伝え残していきたいものを、写真と言葉による情報として収集し、一般の人々が平易な言葉で ESD の意義を語り、その理解や関心を深める機会を提供します。入選作品は、大型パネルとして巡回展示し(フォトキャラバン)、そこでも、さまざまな学びと気づきをうながします。

### (5) 人物交流プログラム-多様な価値と異文化の交流から生まれる創造と信頼

「ユネスコ青年交流信託基金事業」や「ACCU 国際教育交流事業」として、主にアジア太平洋地域の専門家、教職員、大学生、高校生を対象とした人物交流プログラムを実施しています。ESD は、各国の専門家や学生の間で関心の高い分野として、地下水資源の管理、エコツーリズム、都市づくり、ESD と文化などのテーマが取り上げられてきました。日本からの派遣と受入れ双方向の交流を通じて、メディアや文献からだけでは読み取れない、その背景にある人々の生活や文化に直接触れ、それぞれの専門分野でのさらなる資質の向上と相互理解を促進することを目指しています。



日本ホリスティック教育協会と共催した ESD 国際ワークショップ&シンポジウム(2007 年 7-8 月・東京)

## 課題

「国連 ESD の 10 年(2005-2014)」前半では、国際実施計画に基づく ESD の概念や解釈に関する抽象的議論、及び様々なレベルで ESD を明示的に促進させるための枠組み作りが力点が置かれてきました。今後、持続可能な社会の担い手を現場で育てるためには、それらの理論や制度に基づき、既存の学習活動を深化させて行く継続した取り組み、及び ESD の掲げる理論を实践したことで生まれた付加価値の共有を通じて、当初の理論を検証するという双方向のアプローチが有効であると考えられます。その際、ESD を明確に意識しない多くの好事例についても、それらの根底にある教育理念の共通項を見出す努力が必要でしょう。また、望ましい教育の理想像を描きながらも、それらの実現を疎外する要因や社会的背景が存在する場合、現状の制度自体を再構築してゆくことが急務であると思われます。

さらに、人々の内面の意識変化や行動変革といった「教育と学び」の側面から持続可能な社会を提起する ESD ですが、人々の基本的なニーズを満たして、安全で安心な生活が保証されるためにも、社会的基盤の整備や適切な技術導入に特化する他のプロジェクトと連携を図れるかどうか、課題と言えます。そうすることにより、ESD の諸活動で構築された目に見えない基盤を活用させ、その成果を持続可能な未来に向けて結実させることができると考えます。

ACCU の ESD 活動の詳細は、下記ホームページをご参照下さい。

日本語版：<http://www.accu.or.jp/esd/jp/>

英語版：<http://www.accu.or.jp/esd/>

### お問い合わせ先

ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)  
住所：〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館  
TEL : 03-3269-4559, 4435  
FAX : 03-3269-4510  
MAIL : [esd@accu.or.jp](mailto:esd@accu.or.jp)

# 地域のユネスコ協会による ESD への取組み (日本ユネスコ協会連盟)

## 団体概要

1947年に日本の仙台で生まれた民間ユネスコ運動は、今年で61年目を迎えます。現在、日本ユネスコ協会連盟は全国約300のユネスコ協会の連合体として活動しています。活動の主体は、地域のユネスコ協会であり、約2万人の会員全員がボランティアとして、それぞれの地で学校教育と社会教育との両面からユネスコ理念の普及と平和を求める人材の育成を行っています。日本ユネスコ協会連盟は、アジアユネスコ協会・クラブ連盟の会長国、世界ユネスコ・協会・クラブ・センター連盟の執行委員国でもあります。



会長 松田 昌士

## 活動概要

### ユネスコ運動-Dプロジェクト「世界寺子屋運動」小・中・高 学びのプログラム

#### 1. 概要

このプログラムは、「ユネスコ・世界寺子屋運動」(日本ユネスコ協会連盟が独自の活動として、1989年からノンフォーマル教育支援として海外で展開)を通じた国際理解教育の一環として、2003年度からスタートしました。

プログラム参加校の児童・生徒が「ユネスコ・世界寺子屋運動」について学び、自ら「伝えたい」と考えた内容をPCの授業の中でリーフレットに表現するもので、授業を進める上で必要とされる寺子屋運動に関する出前授業などを当該地のユネスコ協会が行い、学校との連携を深め、国際理解を深めることを目的としています。



子どもたちが作成したリーフレット

#### 2. プログラムの特徴

このプログラムは、一部パソコンクラブ活動などを除き、正規授業に位置づけられた取り組みで、次のような特色があげられます。

- (1) 参加校間での地域や規模、年齢や学齢を越えた交流が可能
- (2) その年のみならず、学校として継続して参加することが可能
- (3) 地域のユネスコ協会や企業などとの連携から“本物の学び”の機会を得られる
- (4) 結果として以下のような“学びの三段重ね”(注)を得られる
- (5) 各年毎に選ばれた作品が、“本物リーフレット”として全国で活用されることで、児童・生徒や親、教員への動機付けにもつながる

(注)“学びの三段重ね”の内容

【第一段】ユネスコ活動や世界寺子屋運動について学ぶ。

【第二段】リーフレット製作にはどのような情報が必要か、どうすれば読んでもらえるのかを学び考える。

【第三段】出来上がったリーフレットを使った活動から、協力する心、人との出会いやつながりの大切さを学び、書きそんじハガキなどが集まることで実感し目に見える結果を得る。

### 3. 参加した子どもたちの感想

「学びの中で分かったことは、ぼくたちにとって当たり前『学校で勉強する』ということが当たり前でないということです。ビデオで学習した時、はじめは『かわいそう』と言っている子がいました。『本当にかわいそうなんだろうか?』と先生に聞かれ、もう一度ビデオを見て考えました。『大変だけれどがんばっている』…みんなで話し合っていく中で、ぼくたちの考えが変わってきました。『自分たちがすすんで応援しよう』と考えることができ、すすんで行くことを“ボランティア”と言うんだということも学びました。駅に掲示したリーフレットを見て募金をしてくださった方もいます。この方たちと直接お話ししたことはありませんが、リーフレットを通じてつながっているんだなと思いました。世界の一人ひとりがぼくたちのように気持ちを变えれば、みんなが幸せになるでしょう!」(和歌山県・大谷小学校5年生、6年生(当時)による発表から)

## 守ろう地球のたからもの

### 1. 概要

日本ユネスコ協会連盟と、MUFG グループ企業(三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券)および三菱UFJ環境財団は、平成20年度から24年度までの5年間、主に小学生を対象とした『守ろう地球のたからもの』を実施しています。人類共通の“たからもの”を未来へ引き継いでいくための取り組みとして、世界遺産・地域遺産活動や、ESDの理念に基づく活動を行うことにより、子どもたちが身近な自然を通じて、環境問題をはじめとする世界規模の問題に関心を寄せ、“Sustainable”な感性を育むことができるような、「学び」「気づき」「行動」の機会を提供しています。



植樹の様子

### 2. プログラムの特徴

#### <その1>「学び」

小学生向けに教材と絵本を制作・提供します。世界遺産を題材として、子どもたちが楽しく環境問題を総合的に学べる小学生中高学年向けの教材を宮城教育大学、奈良教育大学とともに制作し、全国の小学校から申込を受け付け配布しています。

#### <その2>「気づき」

これまで32年にわたり、「みどりの絵コンクール」を開催しています。2008年度から、子どもたちに地域の身近な自然の素晴らしさを再発見してもらい、地域と地球を愛する心を育んでもらいたいとの思いから、『わたしが守りたい身近な自然』部門を新設し、さらに広く作品を募集します。

#### <その3>「行動」

地域の方々、MUFG社員のほか、「みどりの絵コンクール」の入賞者に参加いただき、大いなる自然とふれあいながら植樹活動を展開しています。

### 3. 植樹参加者の感想

「企業としてこのように貢献活動ができることを大変誇りに思うとともに、自己満足ではいけない、身近な、できることからボランティアを始めよう、地道に続けて行こう、という意識が芽生えました。」

## お問い合わせ先

社団法人 日本ユネスコ協会連盟

住所：〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-3-1 朝日生命恵比寿ビル 12階

TEL：03-5424-1121

FAX：03-5424-1126

MAIL：nfuj@unesco.or.jp

# 市民組織による ESD ネットワーク形成と ESD 推進の仕組み作り (NPO 法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 (ESD-J))

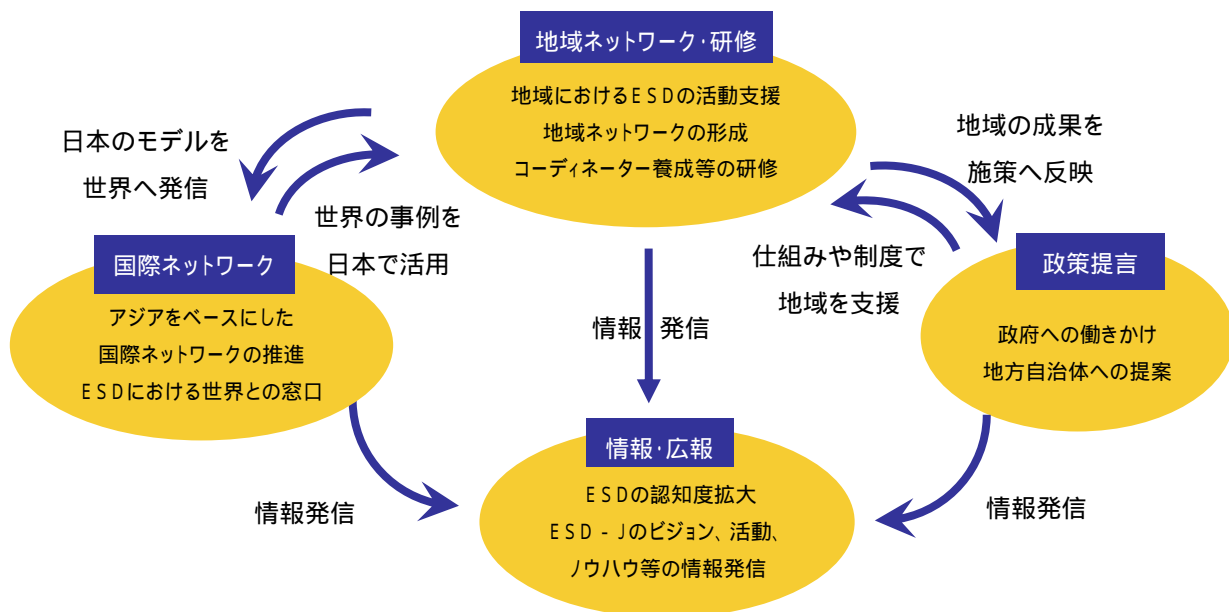
## 概要

ESD-J は、2005 年から始まった「ESD の 10 年」を追い風として、市民のイニシアティブで“持続可能な開発のための教育”を推進するネットワーク団体です。ESD に取り組む、NGO/NPO・教育関連機関・自治体・企業・メディアなどの組織や個人が、つながり、国内外における ESD 推進のための活動を展開しています。

国内では、100 を超える環境・開発・人権・福祉・平和など多様なテーマに取り組む組織と、約 300 名の個人からなるネットワークを形成し、各地における ESD の周知・事例収集を進めながら、政策提言づくり、教材づくり、研修の実施、情報発信などに取り組んできました。ESD-J のネットワーク活動そのものが、世界においてもユニークな、市民発・ESD 推進のひとつの枠組です。



## ESD-J の活動 5 つの柱



## 目標

- (1) 政府による国内実施計画の実効性を担保するために各ステークホルダーと連携しながら、より良い国レベルの推進体制を提案・創造する
- (2) 「ESD を推進する地域の仕組み」のモデルを地域と共に模索・創造する
- (3) 地域の取り組み段階に応じた支援メニューを開発・提供しつつ、全国レベルでの「ESD 推進の仕組み」を提案し実現に努める
- (4) 「ESD を推進する仕組み」に必要な人材の養成に取り組む
- (5) 教育の担い手に対し、ESD への理解を広める
- (6) ESD の推進につながるあらゆる事業を、さまざまなテーマで活動する NPO をはじめ、行政・企業・教育機関など、多様な主体との対話や協働を通して実施する

## 組織・実施体制

会 員 : 団体会員 : 100 団体 個人会員 : 310 名 (2008.10.30 現在)

運営体制 : 総会 - 理事会 - 事務局 / プロジェクトチーム (PT)

\* 理事会 (12 名…会員による選挙で選出された理事 9 名 + 推薦理事 3 名)

\* プロジェクトチーム (政策提言 PT、情報共有 PT、地域ネットワーク PT、国際ネットワーク PT、研修 PT、広報 PT : 理事が各 PT リーダーを務める)

## 活動内容 (国内)

### (1) 「地域の ESD 実践ハンドブック」の制作

これまで収集した事例、共同実施した事業などから、ESD の内容、仕組み、プロセス、担い手等に注目し、ESD に取り組むときに役立つノウハウ・考え方・ツールなどを抽出・とりまとめ、『地域の ESD 実践ハンドブック』(A5 サイズ、100 ページ、500 部)の発行を予定しています。作成にあたっては、全国 7 箇所地域ワークショップを開催し、会員や地域の実践者との対話を強化します。

### (2) ESD 推進のための政策提言

全国各地で ESD に取り組む人びとの声を集め、ESD を促進するための取り組み、仕組み、施策、スケジュール等を策定します。また、その実現に向け、国会議員 (ESD 推進議員連盟など)、政府 (関係省庁連絡会議、円卓会議など) に働きかけます。

## 成果と課題

### (1) 地域ネットワーク & 情報提供の成果 :

- ・全国 40 箇所 ESD 地域ミーティングを開催、100 団体 300 名のネットワークを形成
- ・先進的に ESD に取り組んでいる地域の活動事例を紹介 (約 40 件)
- ・ESD テキストブック「未来を作る人を育てよう」発行 (6000 部)
- ・紹介事例や環境省 ESD 促進事業のモデル地域の取り組みから課題やヒントを抽出 (2008 年にハンドブックやヒント集として出版予定)
- ・ウェブサイトの運営、メールマガジンの発行、地域ブログの立ち上げ等により、ESD 情報を提供
- ・経団連での ESD セミナー開催、企業や自治体との協働プロジェクト等を展開

(課題) 財源の継続的な確保が難しい (現在は助成金や受託事業で実施)

### (2) 政策提言の成果 : ESD-J からの提案・働きかけにより実現した国レベルの仕組み

- ・ESD の 10 年関係省庁連絡会議 (2005.12)
- ・ESD の 10 年国内実施計画策定 (2006.3)
- ・与党による「ESD 推進議員連盟」発足 (2007.6)
- ・関係省庁連絡会議が円卓会議を設置 (2008.1)

(課題) これらの推進体制をより強化し実効のあるものにする

国レベルの ESD の 10 年の達成目標の設定と、その実現のための政策策定  
ESD-J の政策提言に関しては 2008 年 12 月取りまとめ予定

### お問い合わせ先

NPO 法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 (ESD-J)  
住所 : 〒151-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F  
TEL : 03 - 3797 - 7227 / FAX : 03 - 6277 - 7554  
MAIL : admin@esd-j.org

# 環境問題を自ら考え行動する「人」づくり (株式会社 損害保険ジャパン)

## 活動概要

株式会社損害保険ジャパン(以下、「損保ジャパン」)は、環境問題の解決の決め手は「人」であり、持続可能な社会の構築のカギを握るのも「人」であると認識しています。企業は社会的責任を負っていますが、それを日々の行動の中で考え実践していく主体は一人ひとりの社員であることから、全員参加の CSR・環境教育に力を入れています。また、損保ジャパン環境財団(以下、「環境財団」)を通じて、「木を植える人を育てる」をモットーに、NPO とパートナーシップを組んで「市民のための環境公開講座」や「損保ジャパン CSO ラーニング制度」などの事業を展開し、環境分野で活躍する人材育成の支援にも力を入れています。

## 背景

損保ジャパンが地球環境室を立ち上げた 1992 年、保険会社として環境問題に対して何ができるか模索する中、企業としての強みとリソースを生かして「人」を育むこと、つまり「環境教育」をキーワードに取り組みを開始することとしました。翌 1993 年、環境教育を専門とする NPO である社団法人日本環境教育フォーラムとの共催で、「市民のための環境公開講座」を開始しました。講座の企画・運営を NPO と一緒に行う手法は、企業と NPO の協働事業の先駆けにもなりました。当時はまだ環境問題をテーマにした総合的な講座はほとんどありませんでしたが、第 1 回目から企業人、NPO、主婦、学生など様々な分野の受講生で超満員となり、分野の垣根を越えた新しい交流の場も広がっていきました。この「市民のための環境公開講座」は損保ジャパンの CSR・環境推進の原点であり、「認識・共感」を「行動」へつなげる、現在の社内での CSR・環境教育にもその経験が生かされています。

## 目的・目標

- ・ 全員参加の CSR・環境教育：社会との「対話力」を持ち、社会的責任を自ら考え実践できる社員を育むことを目的としています。このことは、組織の中に真に CSR を根付かせ、事業活動のなかに環境や社会への配慮を織り込むために不可欠であると考えています。
- ・ 「市民のための環境公開講座」：「認識から行動へ」をモットーに、市民がより深く環境問題を理解し、日々の行動に生かすための場を提供することを目的としています。環境問題をよりリアルに実感するためのフィールド体験を盛り込むなど、持続可能な社会をめざした「行動」のステージにつなげることを目指していきます。
- ・ 「損保ジャパン CSO ラーニング制度」：次代を背負う若者が、環境問題や市民社会のあり方などを考え、より視野の広い社会人として成長していくことを目指しています。また、学生を受け入れる CSO (Civil Society Organization、「市民社会組織」。NGO・NPO と同義) にとっては、CSO の理解者を増やすとともにマンパワー支援の一助となることを目的としています。この制度は、企業と CSO の協働による環境人材育成の先進的な取り組み事例といえます。



CSO ラーニング制度 キックオフミーティング

## しくみと活動内容

・ 全員参加の CSR・環境教育：損保ジャパングループの全役職員が 毎年受講する「CSR・人間尊重推進研修」は、当社 CSR コミュニケーションレポートを教材に使い、単に知識を学ぶのではなく各職場での業務に環境や社会への配慮をどのように織り込んでいくかを議論する、知識を問題解決に生かす力を養うリテラシー研修として実施しています。また、全新入総合職員向けの CSR 研修においては、CSR 対話や車いす・アイマスクなどの体験研修も盛り込み、自ら考え行動するマインドを醸成することをめざしています。さらに、社員の自主的な環境・社会貢献活動を支援する仕組みとして、地域で自治体や NPO とともに自然保護活動などに取り組む社員ボランティア組織「ちきゅうくらぶ」を 1993 年に立ち上げ、全社員がメンバーとなっています。



2007年度の活動は全国で約300件に及んでいます。また、こうした活動を資金面で支援するための社員のボランティア募金として「損保ジャパンちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」制度があります。

- ・「市民のための環境公開講座」：日本環境教育フォーラム、損保ジャパン、環境財団の3者共催で1993年から継続開催しています。多様なセクターの方に講師をお願いし、2007年度までに累計1万3480名の市民の皆さんとともに様々な角度から環境問題を考え続けてきました。これまでの講師や受講者の方々との交流、育んできた知見やネットワークは、当社にとってもかけがえのない財産となっています。2007年12月には、15周年記念シンポジウムを開催し、基調講演のほか政治、実業界、メディア、文化、教育の5分野を代表する方々のリレー形式での講演を行いました。2008年度の講座は、特別講座「洞爺湖サミット」を読むを皮切りに、「温暖化・日本の役割」、「次世代へつなぐ生物多様性」、「五感で感じる自然・文化」、「誰にでもできるエコアクション」の各3回4つのパートで開催しています。
- ・「CSOラーニング制度」：損保ジャパン環境財団の事業として、2000年度に開始しました。大学生・大学院生に、環境NPOでの長期のインターンシップの機会を提供する制度です。インターン生としてCSOに派遣される学生にはCSOの活動時間に応じて奨学金の支給を行います。奨学金は「損保ジャパンちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」からの寄付金を活用しています。当インターンシップ制度での活動を単位認定する大学も増えてきました。

CSOでの具体的な活動内容は、セミナーの企画運営、出版物の作成、自然体験によるフィールドワーク等、多岐にわたります。活動期間は6月から翌年1月までの8ヶ月間で、累計120～250時間の活動を行います。現在、関東・関西・愛知・宮城地区の30を超えるCSOで、総勢約60名の大学生・大学院生が、それぞれの役割を担って活躍しています。



派遣CSO数と学生数



## ESDの特徴

持続可能な社会の構築に向けて、企業は重要な責任を負っています。その責任は社員一人ひとりが、日々の業務の中で自分で考え行動で示してはじめて果たすことができます。持続可能な社会構築のカギは行動する主体としての「人」づくりであり、損保ジャパンのCSRは「人」を中心に据えた「ESR (Employee Social Responsibility)」であるといえます。

また、ESDの展開においては、企業からさまざまなステークホルダーに対話と協働を働きかけているのが特徴です。特にNPOとの継続的パートナーシップのもと、「NPOとともに人(=市民)を育む」ことに力を入れてきました。主体的に考え行動する「人」づくりは、多様なセクターの方々との交流と対話のプロセスを通じて「共感」を育むことから始まると考えているからです。なかでも企業とNPOとのパートナーシップが、重要な役割を果たすと考えています。

### お問い合わせ先

株式会社損害保険ジャパン  
 CSR・環境推進室  
 住所：〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1  
 TEL：03-3349-9596  
 FAX：03-3348-3304





# ESD の地域拠点としてのネットワーク活動 (RCE 横浜)

## 概要

RCE 横浜は 2006 年の認定以来、市内の大学、市民団体、学生などと協働してワークショップやシンポジウムなどのイベント開催、活動内容紹介のパンフレット作成などを行ってきました。多くの主体が参加し、活発な情報交換が行われています。

## 目的・目標

- ・ 市内におけるあらゆる ESD の活動主体が集まる「場」を形成し、様々な活動のネットワーク化を推進すること
- ・ RCE を拠点として活動主体がつながり活動が活性化することを目的としています。

## 実施体制

RCE 横浜では、行政組織（横浜市役所）を事務局とし、関係する団体（大学、NPO、JICA 横浜、シティネット、国連大学高等研究所）の代表で構成する協議会を設置しています。協議会は年間 4 回程度開催しています。

## 活動内容

RCE 横浜は、活動団体や大学などの様々な活動主体が集まり、情報交換や、各団体の協働を促進したりする場を提供する組織活動を行ってきました。これにより、例えば、市内の数多くの大学生間の連携が図られました。平成 19 年度には、横浜市内にある 28 大学に呼びかけ、環境活動に自主的に取り組む学生を中心にしたネットワークを形成するための「2007 大学生エコ・ネットワーキングカフェ in 横浜」や「カフェ分科会」を開催し、それぞれの活動状況に関する情報交換等を行いました。また、環境活動に取り組む各主体の情報交換を目的にシンポジウムを開催しました。RCE 横浜という「場」に集まった学生の様々な活動は、新たなつながりを生みだし、それぞれの活動の幅を広げています。

今年度は、環境活動を行っている学生など若年層のグループライダー等を対象に、活動を活性化するための手法やノウハウ等を学ぶ講習会の開催、市内大学に呼びかけて一斉環境行動の実施、情報交換のためのシンポジウムの開催などを予定しています。

## 成果

市民活動や環境教育といった様々な活動は、地域に密着したレベルでの活動となるのでそれぞれの地域に限定されがちですが、これらの活動が RCE という「場」を通じ ESD を知ることによって、実は世界規模でも繋がっているということを理解することができました。

RCE 横浜では、市内で様々な活動を行っている大学生が集まり、ESD に関する知見を共有し、連携して活動を行うための学生間のネットワークが形成されています。（例：学生メーリングリスト）

このネットワークから、大学生が中心となった「パンフレットプロジェクト」が生まれ、RCE 横浜を紹介するためのパンフレットを作成しました。



「2007 大学生エコ・ネットワーキングカフェ in 横浜」



「横浜発!! 持続可能な地域社会への行動」  
市民シンポジウム

## 課題

RCE 横浜では、参加団体の広がり、活動内容の魅力、活動の継続性など、まだまだステークホルダーのニーズに応えていません。参加団体は、大学を中心として、NPO 団体、行政が参加するにとどまっています。

今後は、以下を課題として取組みたいと考えています。

RCE 横浜の今後の課題：

RCE 横浜を特徴付けるフラッグシップ事業の模索

RCE 横浜の構成員の自主的な活動を促進するための仕組み作り



菱沼博道(ひしぬま ひろみち)  
横浜 RCE ネットワーク推進協議会事務局

### お問い合わせ先

機関・団体名：横浜 RCE ネットワーク推進協議会事務局（横浜市環境創造局環境政策課）  
住所：〒231-0017 横浜市中区港町 1-1  
TEL：045-671-4102  
FAX：045-641-3490  
MAIL：[ks-rce@city.yokohama.jp](mailto:ks-rce@city.yokohama.jp)

## 小学校への出前授業「P & G水と生活の環境教室」 (P & Gジャパン)

### サステナビリティ教育とP & G

P & Gは洗剤、シャンプー、紙おむつ、化粧品などを提供する日用消費財メーカーです。「現在そして未来の世界の人々の暮らしを向上させる」ことを企業としての目的とし、サステナビリティの考え方を全ての活動のベースとしています。また、毎日の生活に接点をもち、子供たちの生活に深くかかわる商品を提供する企業として、サステナビリティ教育の支援こそがP & Gが行うべき貢献ととらえています。

### 兵庫県との協力による、指導要領に対応したユニークなプログラム

学校における子どもたちの環境教育に力をいれている兵庫県では、企業がもつ専門知識も積極的に活用することを環境教育推進の政策のひとつとしています。日本の本社を兵庫県神戸市に構えるP & Gでは、この活動に全面的に貴協力し、自社開発プログラム「P & G 水と生活の環境教室」を県下の小学校に出張授業として無償提供をしています。



プログラムは「水の大切さを認識する」ことを第一の大きな目的とし、具体的には、生活の中の水の役割、水をめぐる社会の仕組み、世界の水の問題などをカバーしています。また、「考えて、実践する」ことを目的に、生活の中でできる節水の工夫のヒントや自分で考えるきっかけを提供する内容も充実させています。プログラムの内容は、出張授業が学校側のニーズに対応できるよう、習得科目と学年の指導要領に基づき、小学校3・4年および5・6年の社会と理科、5・6年の家庭科（洗濯と食器洗い）と、合計6種類をメニューとして紹介しています。それぞれに配布教材を製作、授業は進行のスライドを準備しています。

企業の教育プログラムが、一般的には企業のメッセージや目的を中心に構成され、指導要領に対応していないケースが多いことから、P & Gが提供するプログラムでは、企業の社会貢献活動と学校のニーズを結びつけ、学校教育において企業が役割を果たすモデルを示すことを目指しています。今年度、依頼のあった県下、神戸市、芦屋市、西宮市などの小学校に社員が訪れ、授業を行いました。子どもたちからは「水は貴重な資源だとわかりました」「今まで考えたことのなかった節水を意識したいと思いました」「節水の機会は身の回りにたくさんあり、思っていた以上に簡単にできることがわかりました」などの声が聞かれ、当初の目的が果たされていることが確認できています。

## 今後の展開

引き続き、内容の充実を図り、活動を拡大していきます。社員からは、担当の部門を越えて、ボランティアとして協力したいとの声も多く聞かれており、多くのニーズに対応が可能になる見込みです。また、サステナビリティ教育を推進するNPO「日本ESD推進フォーラム」の活動に参加し、この活動を全国に展開する手法を検討していくとともに、他の企業に活動を紹介し、活動の輪をひろげることに貢献を続ける予定です。



### お問い合わせ先

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン（P & Gジャパン）株式会社  
エクスターナル・リレーションズ アソシエート・ディレクター 高田誠  
住所：兵庫県神戸市東灘区向洋町中1-17  
TEL：078-845-6624  
FAX：078-845-6982  
MAIL：takada.m.1@pg.com

# 北九州地域における ESD の推進 ( RCE 北九州 )

( UNU/RCE もご参照下さい。 )

## RCE 北九州のビジョン

RCE 北九州は、「公正で持続可能な社会 (= 世界の環境首都)」構築を目指して、市民ひとりひとりが、持続可能な開発という概念を理解し、達成するための実践活動が行えるように、市民、大学・研究機関、企業、行政などが連携して、自発的かつ自立的な ESD を促進し、あらゆる主体の活動視点に持続可能な社会づくりの概念を無理なく、楽しく、役に立つような北九州方式の「持続可能な開発のための教育」を推進し、その手法、システム、アプローチを構築し、国内外へ発信することを目指しています。

RCE 北九州が目指す ESD とは、自らが「感じること」、「学ぶこと」、「考えること」、「行動すること」ができるような人材育成のための教育で、従来の講義形式の「教え込む」教育だけでなく、参加型・体験型の学習方法を推進することである。そうすることによって、公正で持続可能な社会の構築に積極的に参画する力を育みたいと考えています。

## 推進体制

RCE 北九州は大学・教育機関、NPO・NGO、地域団体、企業、国際協力機関、行政など多岐にわたるさまざまな分野の組織で構成されています。(2008年11月現在、57団体がメンバーとして加盟)。また、財団法人アジア女性交流・研究フォーラムが事務局を運営しています。

## 活動概要

### 1. 北九州の RCE/ESD 活動のニックネーム公募

北九州 RCE/ESD 活動のニックネームは全国の応募の中から「未来パレット」に決定しました。

### 2. チーム別ミーティング

毎月、各チームでミーティングを開催し、以下の内容について話し合いを行います。

#### (1) プロジェクトチーム

- メンバー間で情報を共有し、連携を深める
- 未来パレット出前講座の実施

#### (2) 広報チーム

- 会報誌「未来パレットだより」の定期発行
- 一般市民向け啓発用リーフレットの作成
- ホームページの充実 (<http://www.k-esd.jp>)

#### (3) 調査・研究チーム

- 子ども向け ESD 教材の作成、ESD 認知度調査の実施

### 3. 学習会 ( ESD ファシリテーター研修 ) の実施

- ESD ファシリテーター研修
- ESD 学習会
- 北九州 ESD 活動についてのパワーポイント研修会

### 4. 北九州 RCE/ESD 活動についてのパワーポイント出前講座の実施

北九州 RCE/ESD 活動についてのパワーポイントによる出前講座。  
公民館、市民センターなどで実施。

### 5. ESD モニタリング調査

北九州市民に、ESD に関するアンケートに回答してもらおう。このアンケートは、エコスタイルタウン、



「未来パレット」のロゴマーク



【広報チーム】会報誌の原案をワークショップ形式で行う様子



ESD ファシリテーター養成研修にて、アイスブレーキングでじゃんけん列車をする様子

小倉駅、商業施設チャチャタウンにて実施。これまで、イベントや広報活動をとおして、ESDの普及活動を行ってきたが、残念ながら、ESDそして「未来パレット」についての認知度は低かった。今後、一層の努力が必要である。



参加者にスタンプラリーの説明をするスタッフ

## 6. 北九州市環境イベント「エコスタイルタウン」へのブース出展

スタンプラリーの実施。RCE / ESD のメンバーのブースを回り、スタンプを集めた参加者には、ロゴ入り 3 色ボールペンを景品とし、また、ブースには RCE / ESD の取組みに関するパネルを展示。

## 7. 上映会「不都合な真実」(2007) 「ツバル」(2008)の開催

主催：(財)アジア女性交流・研究フォーラム 共催：北九州 ESD 協議会、ユニフェム北九州により開催。

1日に昼と夜の2回上映し、来場者には、ESDに関するパンフレットなどを配布。

## 8. 韓国スタディツアー(2007)

韓国・RCE トンヨン、RCE インチョンを訪問し、取り組みを学びながら、現地の ESD 関係者と交流を深める。

## 9. ESD パイロットプロジェクト

助成事業プロジェクトの実施。2007年度は以下の団体よりプロジェクトの申請があった。

- (1) 若松秋桜会「ESDの視点で、私たちの活動を再点検！」
- (2) 北九州市保育所連盟「コラボ事業で環境啓発布絵本をつくる」  
北九州インタープリテーション研究会  
「元気君のお誕生日～たべきれなかったごちそう・ゴミのゆくえ」布絵シアター
- (3) シニアネット北九州「土とのふれあいで伝える循環社会の実現」
- (4) 北九州市女性団体連絡会議「ESDを知ろう！」



北九州インタープリテーション研究会 布絵シアター



シニアネット北九州「土とのふれあいで伝える循環社会の実現」

### お問い合わせ先

北九州 ESD 協議会 事務局  
住所：〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11 番 4 号北九州市大手町ビル 6 階  
TEL：093-583-1081 FAX：093-583-1091  
MAIL：k-esd@k-esd.jp

# 岡山市域における ESD の推進 ( RCE 岡山 : 岡山 ESD 推進協議会 )

( UNU/RCE もご参照下さい。 )

## 活動概要

岡山 ESD 推進協議会は、岡山市域で ESD を推進するために 2005 年に設立され、ESD 活動を行う学校や団体をつなぐ緩やかなネットワークの構築、市民への広報啓発、ESD 研修、地域内外との交流・情報交換等を行っています。

また、岡山市域は、国連大学から同年 RCE ( ESD に関する地域の拠点 ) にも認定されており、国連大学や世界各地の RCE と連携しながら ESD を推進しています。



内藤元久 岡山市環境保全課長

## 背景・課題

岡山地域では豊かな自然条件を背景に以前から市民による自主的な環境づくり活動が盛んでした。これらを行政としても支援し、市域全体の環境保全意識の向上や実践活動を促すため、岡山市は 2001 年から「環境パートナーシップ事業」を開始したところ、現在では約 900 団体の 3.4 万人が参加する事業となっています。( 本事業は 2002 年のヨハネスブルグサミットのサイドイベントでも発表しています。 )

このような環境活動だけでなく岡山地域には 100 以上の国際交流・協力団体が活動しており、また学校教育や、公民館活動などの生涯学習においても様々な環境教育や国際理解教育などが盛んでした、活動間の連携は十分ではありませんでした。そこで、これらの活動をゆるやかにつなぎ ESD を推進することにより、持続可能な社会づくりを目指すこととしました。

## 目的・目標

当初の目標は下記のとおりです。

- ( 1 ) ESD を広く市民に広報啓発する
- ( 2 ) ESD に関連する教育活動をゆるやかに連携させ、時間的、平面的に広がりのある効果的な活動とすること
- ( 3 ) 指導者に ESD の研修を行い、地域の実情にあった課題に取り組む能力を育成すること
- ( 4 ) それらの組織の中から ESD を推進できる大学や社会教育施設などの中核組織を育成すること。



教員対象 ESD ワークショップ

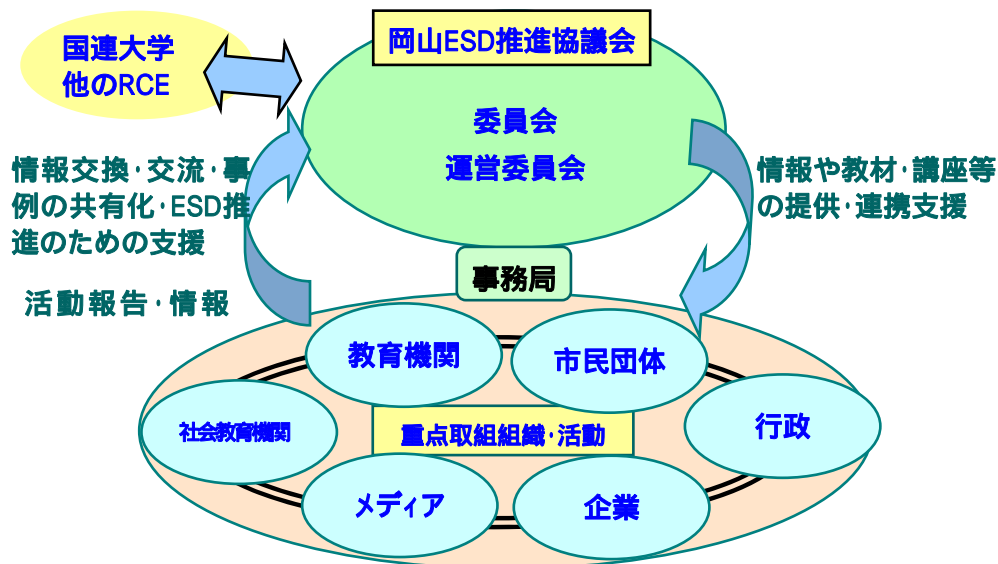


ESD・環境活動発表交流会の様子

## 実施体制

岡山 ESD 推進協議会は、学校や社会教育施設、市民団体、企業、行政などさまざまな組織の代表からなる委員会と運営委員会、ESD 研究会から構成され、岡山 ESD プロジェクトを推進しています。

岡山市環境保全課が事務局を務め、地域内で ESD 活動を行う学校や団体を重点取組組織として指定し、支援しています。



## 資金

岡山市の提供する資金及び各機関の既存の活動のための資金を効果的に活用しています。

## 活動内容

- ・ ゆるやかなネットワークの構築・情報交換
- ・ 広報啓発活動
- ・ 教員研修
- ・ 公民館職員・市民団体リーダー研修
- ・ 高校生・大学生対象人材育成
- ・ 公民館を中心とした ESD 活動
- ・ 地域内外との交流・情報交換



リサイクルについて考える夏休みの公民館講座で、工業高校生と福祉作業所の方が協力して、地域の親子に廃油石けんづくりを指導しています。

## 岡山地域の ESD の特徴

岡山市域は公民館活動の盛んな地域であり、公民館では ESD が含む幅広い分野の事業を展開していますが、既存の事業を ESD の観点から見直し、それにふさわしいテーマや内容、学習方法となるよう改革することにより、公民館が地域で ESD を行う拠点となることを目指しています。また、学校内だけで完結しない ESD という教育事業において、学校と地域をつなぐ役割を公民館が果たすことを目指しています。

また、岡山大学が ESD をテーマとした「ユネスコチェア・プログラム」の認証を取得するなど、複数の大学が地域全体の ESD 推進の中核的な役割を担ってきています。

### お問い合わせ先

岡山 ESD 推進協議会  
 住所：〒700-8544 岡山市大供 1-1-1 岡山市環境保全課内  
 TEL：086-803-1284  
 FAX：086-803-1737  
 MAIL：kankyouhozen@city.okayama.okayama.jp



# 京山地区 ESD 環境プロジェクト(KEEP)の実践 (岡山市京山地区 ESD 推進協議会)

## 活動概要

京山地区は、地区人口が約 24,000 人で、岡山市域にあります。「環境」を切り口に、公民館、小学校、中学校、高校、大学、岡山ユネスコ協会、環境関連 NGO、IT サポーター、ビデオクラブ、高齢者クラブ、町内会等のコミュニティ組織、企業、教育委員会といった組織・団体と、学生や教師等の個人レベルまでの主な地域の関係者(ステイクホルダー)が連携、協働して、ESD を通して、地域が抱えている持続性を損なっている課題の解決と持続性を高める活動に取り組んでいます。あらゆる年代層の異なった立場の人々が、できるだけ多く参加するようにしています。また、次世代を担う子ども達(小中学生等)が高齢者等と協働して活動することで、高齢者等が持つ持続可能な社会づくりに欠かせない貴重な知識と技能が次世代へと引き継がれています。



池田満之  
岡山市京山地区 ESD 推進協議会会長

## 背景

京山地区では、学校と地域が連携し、川と共に生きる暮らしと文化の再構築に取り組むため、以下のような環境体験学習活動が続けられてきました。

- ・1997年～「ふるさとの川とともに生きる」活動(旭川流域ネットワーク)
- ・1999年～「川と共に生きる暮らしと文化」活動(岡山ユネスコ協会)

こうした中、2002年のヨハネスブルグ・サミットへの参加、「ESDの10年」を契機に、既存の環境体験学習活動をESDへと進化させました。

## 目的・目標

公的社会教育施設である岡山市立京山公民館を拠点に、子どもの視点を重視しながら、地区内の全世代合同・学社連携によって環境点検への取組を実施。この活動を通して、地域が抱えている課題を地域全体で認識・共有し、地域としてその改善に取り組んでいこう、また、地域を担う人づくりを地域で行っていかうとしています。

京山地区では、京山 ESD 検定をもとに「京山 ESD フェロー」(京山地区 ESD 推進員)の認証も始めて、ESD に主体的に参加する人の輪を広げています。「一人の百歩より百人の一步」をモットーに、ESD によって地域社会全体の意識や常識が変わり、持続可能な社会へと向かっていけるように、また、地域のみみんなの心の中に、ここが自分のふるさとなのだ、自分の居場所なのだと思えるように、地域全体での人づくりをこれからも進めていきます。そして、各学校や公民館などの主体的な取り組みを重視しながら、学校間での連携や学校と地域との連携を図った ESD を地域全体で取り組むことで、住民みんなが教育に関心を持ち、参加する地域づくりを目指していきます。

## 実施体制

地区内の小中学校の校長先生や公民館長、NGO/NPO の代表、地域の代表などといった主要セクターの代表者が話し合い、協働して京山地区での ESD を進めていくことに合意し、2006年7月8日、「岡山市京山地区 ESD 推進協議会」(事務局：岡山市立京山公民館)が立ち上がりました。この協議会には、さまざまな大学、学校や地域組織、企業など広範なセクター、多様な分野の団体、個人が参画をしています。

### 実施主体である「岡山市京山地区 ESD 推進協議会」の核となっている主要構成団体

- 行政・社会教育組織：岡山市立京山公民館(岡山市教育委員会)
- 地域コミュニティ：京山公民館運営協議会  
(各町内会長やコミュニティ協議会長や老人クラブ代表や学校長や PTA 会長等地区代表により構成)
- 学校組織：岡山市立伊島小学校、岡山市立津島小学校、岡山市立京山中学校及び同校同窓会、岡山県立岡山工業高等学校、岡山大学(ユネスコチェア)等
- NGO・NPO：岡山ユネスコ協会、京山 IT サポーター、ムービー京山、津島生活学校 等
- 企業：尾崎商事株式会社、株式会社環境アセスメントセンター西日本事業部 等

## 資金

関係者により提供される自己資金により活動しています。

## 活動内容

地域の環境点検のほか、地域全体で話し合う ESD サミット(地域全体会議)やワークショップ、エコツアー、ESD フェスティバルなどを通して、地域教育力の向上や地域コミュニティの絆を深める活動を行っています。2007 年度からは、中高生が中心に企画・運営する「岡山 KEEP 勉強会」、地域の記憶を伝承する「ムービー京山」の活動、ただ学ぶだけでなく、社会を持続可能なものへと変革していく実践を進めるための「京山マイバッグコンテスト」、ESD から地域の「持続可能な開発」を具現化する京山 ESD「緑と水の道」プロジェクトなどにも取り組んでいます。



写真1 学社連携・全世代合同による地域の環境点検の様子



写真2 京山地区 ESD フェスティバルの様子

## 活動の成果

この活動に参加してきた中学生が「僕は、この活動に参加して、目の前に流れている川が今のようにあるのは、農家、行政、会社など、とても多くの人に関わったの結果だということに気づきました。環境は人や社会と密接に関係していたのです。僕は岡山 KEEP の活動の中で、環境と関わる以上に、地域の社会と深く関わりました。その中で、自分とは違う世代の人と学ぶ会することで、自分がこの地域の一員であるということを実感し、この京山に愛着がわきました。これからも地域の環境に目をつぶらず、自分の問題として地域のみならず一緒に考えていきたいと思えます。」と話してくれました。この活動に参加してきた小学生も、「私が岡山 KEEP で学んだことは、環境のことだけではなく、忘れかけていた地域への思いやりや、地域の人へのあたたかさです。」と話してくれました。こうした小中学生の言葉には、この活動が地域の中で人を育て、地域に愛着を感じ、地域の人たちが密接に関わりながらともに学び合い、持続可能な地域を創っていくとする ESD が、少しずつですが根づきつつあることを感じさせてくれます。



岡山 KEEP のロゴマーク



写真3 2008 年度「岡山市京山地区 ESD 推進協議会」役員等の ESD 推進中核メンバー

### お問い合わせ先

岡山市京山地区 ESD 推進協議会（事務局：岡山市立京山公民館）  
住所：〒700-0016 岡山県岡山市伊島町 2-9-38  
TEL：086-253-8302  
FAX：086-253-8302  
MAIL：kyoyama\_k@ci ty.okayama.okayama.jp